

1 学校教育目標		
思いやりを持ち(徳)、自ら学び(知)、心身を鍛え(体・情)、21世紀を生き抜く児童・生徒の育成		
2 学校経営ビジョン		
【めざす学校像】 【めざす教師像】 【めざす児童像・生徒像】	明るく、活力に満ち溢れる学校 教育理念に支えられた教育愛と使命感のある教師 すすんで自分のよいところを伸ばす、児童・生徒	品位と風格のある学校 研修に励み、実践的指導力を磨く教師 すすんで自分の力を生かす児童・生徒
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題	
基礎学力の定着をめざす学習指導の充実 心を育てる生徒指導の充実 開かれた学校づくりの推進	授業に「学び合い活動」を取り入れたり、「学習のてびき」を作成したりして、自分の思いを伝え合う力の育成や学習習慣の定着を図ってきた。 全国や県の学習状況調査の結果を踏まえながら、小中併設校の利点を生かし、さらに指導体制の工夫や授業の活性化を図り、基礎学力の充実を推進していきたい。	

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	児童・生徒目標の周知	教職員、児童・生徒、保護者に周知する。 認知度を85%以上にする。	B 年度当初の通信等による周知や教室の前面掲示などに取り組んできたが、まだ十分とは言えない。	・各教室に掲示する。 ・学校便り、育友会総会、学級懇談会等で周知し、具体的取り組みを説明する。	児童・生徒への年度当初の周知はできていたが、年間を通し継続した取組ができていなかった。 保護者には学校だより等を通し、周知を図ることができた。
	開かれた学校づくり	地域と共にある教育活動の展開	主な学校行事への参加率を85%以上にする。 学校ホームページの更新を週1回以上行う。	A 体育大会や文化祭などの大きな行事はほぼ100%の参加であり、地域の方々にも多数来ていただくことができた。	・学校便り、育友会総会、学級懇談会等で周知し、具体的取り組みを説明する。 ・参加しやすい方法を工夫する。	天候の影響もあったが、今年度の文化祭には100名を越える参加があり、非常に盛況であった。 年間を通した授業参観・懇談会への参加も平均76.9%と比較的高い参加率となった。
教育活動	学力向上	少人数指導・TT指導等による基礎・基本の定着 発展的な内容への取組	唐津市基礎学力テストの通過率を80%以上にする。 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の通過率を前年度比+5ポイントをめざす。	A 第2回基礎学力テストでは、小学校は92%、中学校では100%の通過率であった。	・計画的に少人数指導・TT指導を実施する。 ・習熟の遅い児童・生徒に対して個別指導を実施する。 ・習熟の早い児童・生徒に対して発展的な内容の指導を行う。	小学校では、人員配置を工夫し、できるだけ単式による少人数指導を行っている。中学校では、数学・英語においてTT指導を行っているが、少人数におけるTT指導の在り方について、さらに研究を深めたい。
		授業における「学び合い」の場の設定と工夫	それぞれの学年・教科において、「ペア学習」「グループ学習」などの学び合いの場や方法の工夫を行う。	A 学び合いの時間を「あいタイム」として、小中学校全職員の授業研究を行うことができた。	・1単位時間の学習過程における、「学び合い」の場の設定 ・単元計画の中における「学び合い」の場の設定	少人数における「学び合い」活動の在り方について、全員授業研究などの取組を通して、研修を深めることができた。今後も継続していきたい。
		授業規律の確認と徹底	小・中学校で一貫性・連続性のある授業規律の作成と児童・生徒への周知・徹底 発達段階に応じた「発表のルール」の作成	A 「発表のルール」に加え、授業規律として「馬渡っ子スタイル」を作成し、全児童・生徒に周知・徹底を図ることができた。	・ノーチャイムで時間を守るための指導を工夫する。 ・学習用具の準備、始業前の着席を徹底する。 ・忘れ物がなくなるよう、適切な指導を行う。	「姿勢と返事」、「ノーチャイム」、「学習用具」等について、小中で一貫性・系統性のある指導ができるように「馬渡っ子スタイル」として作成し、指導が行き届くようになった。
		小中学校の職員の授業交流の推進	小学校職員が中学校の授業に、中学校職員が小学校の授業に出授業として出る時間を、前年度比20%アップさせる。	A 今年度は、中学校教員9名中6名が小学校の出授業に出て、小学校5・6年生担任が中学校美術に出ている。	・中学校教員の専門性を、小学校に生かす。 ・小中学校それぞれの教育課程の工夫。	小中一貫教育を目指し、今年度は授業レベルでの小中学校職員の交流を進めることができた。 次年度も、さまざまな場面で交流を進めたい。
		一人あたりの図書貸出冊数の増加と読書の質の向上 図書館利用の推進	朝読書の時間の確保と本の選び方についての指導 バーコードリーダーと管理システムソフトを用いた図書貸出しシステムの構築	B 朝の時間に職員や中学生による「読み聞かせ」をはじめ、非常に好評であった。	・朝読書の充実 ・図書館のICT化 ・図書館だよりの発行	「読み聞かせ」をはじめ、朝の読書は定着し、静かに読書に親しむ雰囲気が出てきた。 図書館のICT化については、準備は進めているが、まだ完全には構築できていないので、早期の運用に努めたい。
		家庭学習の充実	学年に応じた家庭学習時間を確保する。 (10分～15分×学年 例：15分×6年＝90分)	C 職員の評価は向上したが、保護者の評価は「C」評価のままであった。児童は「A」、評価、生徒は「B」評価であった。	・各学年の学習時間の設定と周知。 ・定期的な学習状況の確認。	目標時間の周知はできているが、高学年になればなるほど、なかなか達成できていない実態がある。量や内容など、教師間の共通理解を深め、家庭の協力も得ながら目標時間を達成できるように支援していきたい。
	心の教育	道徳の時間の充実	道徳の授業を年1回以上公開する。 道徳教材・資料の共有化	A 唐津市教育の日などの参観日において、全学級道徳の授業を行った。	・全学年で授業参観において道徳の授業を実施する。 ・教材、指導案(略案)、ワークシート等をデータ保存・ファイルングし、本校の教育資源として共有化を推進する。	小中学校ともに、唐津市教育の日の「ふれあい道徳」を中心に授業公開を行った。内容も「児童・生徒の実態に応じたもの」や「教師の思いを反映したもの」、「障がい者差別を取り扱ったもの」など、創意工夫が見られた。
	健康・体づくり	基本的な生活習慣の定着	「起床」「就寝」「食事」など、規則正しい生活習慣を身につける。 月目標を意識した生活を心がけさせる。 遅刻0を目指す。	B 小学校「自分向上プロジェクト」中学校「学校生活アンケート」の取組を定期的に行うことで意識化を図った。	・年間を通して、朝のあいさつ運動を実施する。 ・学校生活アンケートを月ごとに実施し、振り返りの場面をつくる。	児童会や生徒会の自発的な取組として、「朝のあいさつ運動」が取り組まれた。 教師の率先垂範等の指導もあり、児童・生徒の返事やあいさつの声も大きく、元気良くなってきた。
		食育の推進	全児童・生徒が毎朝ごはんを食べる。 朝食内容の向上について啓蒙を図る。	A 朝食の摂取率は100%であり、内容についても、食育便りなどを通して啓発できた。	・食育便りの月1回発行。 ・朝食状況調査の実施。	朝食の摂取率は100%であり、「個食」「孤食」の状態も無いと言える。しかし、摂取内容については十分でない場合も見受けられるので、「献立だより」の中の「食育だより」を通して啓発を行っている。
	特定課題	小学校低学年の学習環境改善充実	基本的な学習習慣の育成	A 発表のしかたや授業の準備などの、基本的な学習習慣の基礎となることを、全児童に確実に定着させる。	A 「発表のルール」や「馬渡っ子スタイル」を周知させることで、基本的な学習習慣が身につけてきている。	・「ハンドサイン」、「発表のルール」を用いた発表のしかたの定着。 ・日々の継続的な指導による授業の準備の定着。

6 総合評価
本年度は昨年度と同様に、学校教育目標を元に3つの重点目標を掲げ、6つの評価項目としたが、評価の観点を8観点から12観点を増やし、よりきめ細かく具体的目標と方策を立て、教育活動を展開してきた。 重点目標 については、「学び合い」活動や「馬渡っ子スタイル」など、校内研究を推進したり、唐津市基礎学力テストに向けてプレテストを実施したり等の取組を通して、基礎学力の定着を図ってきたが、まだ十分ではない。特に学年に応じた家庭学習の時間の確保については、さらに取組を進める必要がある。 重点目標 については、道徳の授業や集会での教師の説話、中学生や職員による「読み聞かせ」などを通して、児童・生徒の心を耕す取組を進めた。 重点目標 については、学校目標や経営方針を学校だよりや評議員会等で周知し、地域への広報なども行った結果、体育祭や文化祭への地域の方の参加が多かった。今年度は地域住民対象のパソコン教室を開催したり、保護者・地域対象の教育講演会を開催したりなどの取組ができた。学校ホームページの更新も回数が多く、対外的な情報公開を進めることができた。

7 来年度の改善策
時と場合に応じたあいさつや言葉遣いは少しずつ改善されてきているが、「明るい元気な声が響く学校」を目指し、さらに指導を継続していきたい。 学力向上は本校の喫緊の課題であるため、各種テストの結果分析・考察を行い、教科指導や個別指導の在り方など、指導法の工夫と充実を図りたい。合わせて家庭学習の時間の確保は、家庭との連携を深め、「学校・家庭でともに育てる」意識を醸成し、目標時間を達成できるように指導を続けたい。 現在も「地域に開かれた学校、づくりは進められているが、今後も地域・保護者を対象にした教育講演会を開催したり、学校施設を活用した各種教室を開催するなど、より地域にとって身近な学校を目指していきたい。 は共通評価項目、 は独自評価項目